陸連時報

2019 令和元年 9月号

題字は平沼亮三（初代陸連会長）の書

目　　次

会長就任にあたって…… 206
専門委員長挨拶…… 207
ドーハ2019世界陸上競技選手権大会日本代表選手（トラック＆フィールド、マラソン、競歩）…… 210
第6回日中韓三ヵ国交流陸上競技大会報告（日本陸上競技連盟　岩瀧　一生）…… 212
U20フランス選手権への参加（U20オリンピック強化コーチ　杉井　將彦）…… 213
第103回日本陸上競技選手権大会キッズデカスロンチャレンジ報告（指導者養成委員会　岸　政智）…… 214
JAAFアスリート発掘・育成プロジェクトU13アスリートクリニック…… 215
Running Week2019・IAAF Run 24:1開催報告…… 216
2019数字で見る陸上競技Vol.2…… 217
大会観戦ガイド…… 218
陸協NEWS…… 220
事務局からのお知らせ…… 221

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

会長就任にあたって

この度、任期満了に伴う役員改選におきまして、公益財団法人日本陸上競技連盟会長に再任され、引き続き、その任にあたることとなりました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をまたぐ私どもにとりましてもひときわ大事な時期の会長を務めさせて頂くことに、身の引き締まる思いであり、我が国の陸上競技界を統轄し代表する組織の会長として、陸上競技のみならず、日本のスポーツ界の発展に少しでも資することができるようその任を務めてまいりたいと思っております。

私が常々申し上げているのは、「頂きはますます高く、裾野はますます広く」ということで、トップアスリートの更なる育成・強化と国際競技力の向上から、全てのライフステージにおいてより多くの方々に陸上競技を楽しんで頂ける環境の創造まで、幅広い私どものミッションを実現するため、汗をかいていく覚悟です。

一昨年、私どもは、「JAAF VISION 2017」を取りまとめ、日本の陸上競技界を統轄する団体としての未来像を明らかにしました。今までの役割にとらわれない成長をめざし、大きな幹のもと、現在、枝葉を広げる作業、アクションプランの策定を進めております。そのなかには、組織の制度設計も含まれております。私どもの活動は、する人、見る人、支える人、すべての人にとって魅力ある場であるべきであり、確実な一歩を踏み出してまいります。

これまでの会長職を振り返りまして、2016年８月、リオデジャネイロオリンピックで銀メダルを獲得した男子４×100mリレーの光景は今なお脳裏に焼き付いております。４人のスプリンターの勇姿は、国際舞台での活躍を夢に競技に取り組んでいる多くの若いアスリートに勇気と活力を与えてくれました。2017年、男子100mで日本人選手初の９秒台に突入し、今まさに群雄割拠の時代を迎えております。「TEAM JAPAN」として力を結集し、この秋のドーハ2019世界陸上競技選手権大会を経て、夢の舞台、東京2020を迎えたいと思います。

また、これから世界へ羽ばたくアスリートを育成することは、私どもの重要な使命です。昨年11月の競技者育成指針の発表は、日本における陸上競技者育成の方向性を具体的に示すことにより、一人でも多くの人が陸上競技を楽しみ、そして、かかわり続けていけるように、陸上競技の普及とアスリートの育成・強化の両面を見据え、全国への普及啓発を進めてまいります。

更に、指導者は、陸上競技の裾野の拡大やジュニア・ユースアスリートの育成、トップレベルの強化など、あらゆる場面で欠かせない存在です。多くの子どもたちに真のスポーツの楽しさ、スポーツを行うことでの人生の豊かさを感じるきっかけを作る役割が指導者であり、アスリートのみならず指導者が国際的な経験や指導力を身に付けることが喫緊の課題であり、私どもの重要な責務として指導者養成を考えていきます。

日本は東京2020を控え、世界のスポーツ界から、スポーツの価値をレガシーとしてどのように残せるか注目されております。私どもは、世の中の流れに対応し、陸上競技界を牽引する役割を果たすため、国際陸上競技連盟とともに組織力を更に充実させ、スポーツの振興はもとより、日本陸上競技界の根幹を支えて頂いている加盟団体、協力団体をはじめとする地域や関連団体との連携をより深め、多くの関係者とともに歩み、環境保全や社会貢献への積極的な取り組みも続けてまいります。

関係各位のこれまでのご協力に厚く御礼申し上げますとともに、今一層、皆様のご理解、ご支援をお願いいたしまして就任のご挨拶といたします。

公益財団法人日本陸上競技連盟
会　長　横　川　　浩

専門委員長挨拶

役員改選にあたって専門委員長の挨拶を掲載致します。

総務委員会、強化委員会、法制委員会、財務委員会、競技運営委員会、指導者養成委員会、施設用器具委員会、医事委員会、科学委員会の９委員会を紹介致します。

総務企画委員会　尾縣　貢

総務委員会と国際委員会を統合し新たに設置をした総務企画委員会は２期目に入りました。その役割の一つに、陸上競技の進行に係わる基本的な政策に関することがあげられます。

陸上競技界は、1年後に迫った東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、めまぐるしいスピードで突き進んでいます。2020東京での成功は、本連盟にとっての第一のミッションではありますが、同時にポスト2020を見据えた活動が重要になります。

そこで、本連盟は中長期計画であるJAAF2017ビジョンを発表し、「競技陸上」と新たな理念である「ウェルネス陸上」の２本の活動の柱を打ち立てました。これらの活動の方向性を示すために、2018年には「競技者育成指針」を作成し、「一人でも多くの人が陸上競技を楽しみ、そして関わり続けるために」をスローガンに諸施策を明示しました。加えて、人生を６つのステージに分け、それぞれのステージにおけるスポーツや陸上競技への取り組みのあり方を示しました。

これは、陸上競技の普及、競技者育成はもちろんのこと、指導者や審判の養成、競技会のあり方も網羅しています。また、アクティブアスレティックライフの実現に向けてのウェルネス陸上への取り組みについても触れています。

総務企画委員会では、これらの施策を展開する過程で生じた問題や課題の解決、ポスト2020を見据えた新たな施策の協議に力を注いでいきます。本委員会の活動は、加盟団体、協力団体、そして競技団体の枠外の方々の協力が必須になりますので、多くの方々のご協力をお願い申し上げます。

強化委員会　麻場　一徳

この度の役員改選に際し、前期より引き続き強化委員長を仰せつかることとなった。とは言え、強化委員会は通例として、オリンピックサイクルで体制が変わることとなっており、その意味では、これまで通りの活動を粛々と進めていきたいと思っている。

東京オリンピックを１年後に控え、いよいよラストスパートの段階となっている。2019年シーズンも日本選手権が終わり、現段階で25名の世界選手権代表が決まっている。この後、９月10日頃には全代表が出揃うことになるが、今回の世界選手権が来年の出来を占う極めて重要な大会となることに間違いない。また、９月15日には、いよいよＭＧＣ（マラソングランドチャンピオンシップ）が行われる。このように、東京オリンピックへの道のりは佳境に入っていると言える。

東京オリンピックに向けた強化委員会活動方針は以下のとおりである。

１．東京2020オリンピックに向けた方針（目標）
　１）メダル・入賞を一つでも多く
　２）舞台に立つ者（出場者）を一人でも多く

２．2019年シーズンの目標
　１）ドーハ2019世界選手権での成功（各カテゴリーが設定した目標の達成）
　２）東京オリンピックに向けたワールドランキング対策
　３）東京オリンピック及びそれ以降につながる戦略的活動の実行

３．具体的戦略
　１）３本柱（男子リレー、男子競歩、男女マラソン）を中心としたメダル獲得プロセスの強化
　２）個人及び特別プロジェクトでの具体的強化プロセス
　３）IAAFワールドランキング制の研究と利用、現場への周知徹底
　４）強化プロセスに直結する選考方法の立案
　５）競技者育成指針（JADM：JAAF Athlete Development Model）に基づくU20、U18の強化・育成施策の展開
　６）アンチ・ドーピングの強化

これらの活動を進めていく上で、陸上競技関係者やファンの方々にとどまらず、多くの国民の皆さんに応援していただけるよう、積極的な情報発信や企画等の取り組みを実践していきたい。

法制委員会　清水　真

このたび、引き続き法制委員会委員長を拝命いたしました。

現職に就任して４年となりますが、この間、スポーツ界を巡る状況は、大きく変化しています。東京オリンピックを来年に控え、競技者の方々のモチベーションも大いに高まっている一方、各スポーツ団体における相次ぐ不祥事が問題となりました。こうした不祥事の多くは、今になって始まったものではなく、長年にわたり、行われていたものが、最近になって表面化したにすぎないものと推察しています。日本では、社会の多くの場面において、

法令の規定を無視するような暗黙の運用ルールが存在し、実際の社会は、この運用ルールによって動いてきました。経済界をはじめとする一般の社会では、平成の時代になったころから徐々に、そのような暗黙のルールによる法令の無視は、許されなくなり、法令の規定を遵守することが求められるようになってきています。いわゆる「コンプライアンス」と呼ばれるものです。スポーツ界においては、このような動きになかなか至りませんでしたが、ＳＮＳの発達による情報流通の活発化等が、長年潜在化していた問題を表面化させたものと考えられます。こうした状況を受けて、この６月には、スポーツ団体ガバナンスコードが制定される等の変革の動きもみられるところです。令和の時代になり、一般の社会で当たり前とされることが、スポーツ界にも求められるようになってきたということです。日本陸連としても、これを機に、改めて見直すべき点がないか検討する必要があります。競技者の方々、ファンの皆様、運営に関与する方々が、楽しく陸上競技に接し、多かれ少なかれ人生を豊かにすることができるということを第一義として、上記の情勢に的確に対応していくようにしたいと考えています。

財務委員会　小手川　強二

財務委員長として三期目を迎えることとなりました。

委員会としては、これまで通り「財政基盤の安定」「公益財団法人としての資金の透明化」「加盟団体への支援」の重要施策を推し進めてまいります。

陸上競技は、オリンピックの華と呼ばれるように、国民の多くから期待と注目を浴びる競技です。来年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。今年は、世界リレーが既に開催され、9月には、MGCそして世界陸上と来年へ向けての大会が次々と予定されております。財務委員会として、このように東京2020を見据えた事業を強力に支援してまいります。また、オリンピック以後についても財政基盤をより強固なものにしてゆく課題に取り組んでまいります。

そして、陸上競技の関係者の皆様の信用と信頼および協力を得るため、財務委員会としても情報の発信を的確に行う必要があると考えます。

今後も、皆様のご支援、ご協力のもと真摯に取り組んでまいりたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

競技運営委員会　鈴木一弘

第9期も競技運営委員長を拝命することとなりました。各加盟団体、協力団体の皆様には引き続きよろしくお願いいたします。

本連盟からの推薦で、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に出向しておりますが、本番を来年に控え、その準備には一層拍車がかかっております。陸上競技はその規模の割に人材不足かつ予算削減に加えて国際連盟からの強い要望との板挟みで苦労しております。競技役員となるNTOの育成研修では多くの加盟団体のご協力のおかげで何とか順調に進行しております。パラ陸連のご協力でパラ陸上競技の研修も終えました。

マラソンのオリンピック代表選考レースMGCはテストイベントでもあります。５月新装なった国立競技場ではオリ・パラともトラック＆フィールドのテストイベントを開催し本番を迎えます。まず、このテストイベントを乗り越えなければなりません。これらテストイベントは日本陸連主管で行うことになります。日本陸連自体は実行組織を持っていないので、さきの世界リレー選手権の運営は非常に困難を極めました。オリ・パラのテストイベントは組織委員会が相乗りして行う特殊な形態のため、さらに複雑になっております。

当面はオリンピックの成功に向けて邁進する必要がありますが、国内競技会の国際対応、即ちランキング制度への対応強化や規則適用の見直し、および公認審判員の研修制度の充実、公認審判員制度の見直し、魅力ある競技会の創造に向けたイベントプレゼンテーションの工夫等、課題はたくさんあります。多くの皆様のご理解・ご協力をお願いする次第です。

指導者養成委員会　山本浩

「優れた指導者あればこそ普及に加速がかかる」「普及が進めば優れた指導者が必要になる」。陸上競技にとって普及と指導は深く連関している。物心ついて陸上競技に打ち込み始めるとき、成長する子どものそばには指導者がいる。身体が大人に変わり始めるとき、心身の変化に応じたアドバイスをくれる人が求められる。勝負のただ中に突入するとき、視線の先にちょっとした頷きをスタンドで見せる人がいる。人生の永きにわたって陸上競技に打ち込める人がいたとするなら、節目節目に優れた指導者が存在したのではないか。

日本陸連の今日的命題のひとつは「一人でも多くの競技者が長く陸上競技を楽しむ」環境を広げること。そのためには、普及育成委員会の残してきた着実な成果を礎にして、普及と指導者養成の連携をさらに進める必要がある。これまで普及育成に関わった多くの委員のエネルギーとその優れた経験と知見は、私たちの大きな財産でもある。

一方で、陸上競技界には克服すべき新たな課題も見え始めている。「他競技団体に比べて指導者資格保有者数が極めて少ないこと。有資格者の男女比にも大きな偏りが見られること」は、すでに競技者育成指針の中でも指摘されている。

資格保有者数を増やすことは、数字の問題ではない。そこに注力することによって、陸上競技界が総力を挙げることにつながるからである。総力を集めるのは、指導に100%の正解を求めるためでもなければ、唯一無二の方針を強制するためでもない。今の社会はそれぞれの考え方が微妙に違うのを認めている。選手に個性があり、環境に特性があり、指導者にそれぞれの哲学があるからである。最新の理論を体得しな

がらなお、日本的土壌の上で折り合えるところはどこか。重なり合っている部分に何があるのか。指導者養成委員会は、各地に点在する経験豊富な人たちの知恵を結集して、今何が求められているかを提示し続ける組織でありたい。

施設用器具委員会　高木　良郎

施設用器具委員会委員長として2期目を迎えることとなりました。

当委員会は、委員11名のほか都道府県の検定員、技術役員、自転車計測員（コース計測員、検定員または技術役員が兼務）総勢147名の大きな組織で、公認陸上競技場・公認長距離競走（歩）路の指導、検定・認定業務を行っております。

世界に先駆けて投てき実施可能な人工芝のガイドラインを2018年9月に策定するとともに、競技場以外での競技会の規則を改正し、新たな陸上競技の魅力づくりの一つとなる取り組みをしてきました。また、レーン幅、助走路幅の国際基準への移行をすすめています。

2020東京オリンピック・パラリンピックの会場である新国立競技場の建設も進み、11月に完成見込みとなっています。各地ではキャンプ地として使用される競技場が多数あります。また、陸上競技のランキング制度が採用され、この制度に対応するため競技場や長距離競走（歩）路の改修、整備やIAAF認証を取得するなど新たな動きが活発化してきております。

このような中、IAAF規則改正などの対応や連携を図りつつ、国際競技会の開催でも問題のない施設の建設を目指すとともに、全国どこでも正確で公平でよりよい環境で競技会ができる施設が求められています。また、一方で施設、用器具整備、運営費負担の理由による廃止をする競技場、競走路もあります。

これらの諸問題に対応できるように検定員、技術役員、自転車計測員のより一層の技術の向上をしていきたいと考えております。施設用器具委員会の活動につきましてご理解とご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。

医事委員会　山澤文裕

医事委員会は医務部、トレーナー部に加え、食育プロジェクトチームを発展させたスポーツ栄養部を2019年度に設置しました。また、医事部にスポーツファーマシストを加え、これまで以上に、スポーツ栄養、アンチ・ドーピング活動を積極的に行える体制としました。アスリートが安心してプレーできる競技ルール作りと、競技会医務、アンチ・ドーピング、トレーナー活動、日本代表チームドクター業務およびアスリートに対する健康相談、健康診断、障害予防、スポーツ栄養指導、サプリメント使用に関する指導など幅広い医学サポートを行います。

アスリートの障害予防は重要な課題で、発育期にあるアスリートのオーバーユースによる慢性障害を予防しなければなりません。2019年6月に実施したアンケート調査では、41陸協に医務部がありますが、医師が部長である陸協は32でした。これは2017年の調査より数が減っています。すべての陸協に日本陸連医事委員会と直結した、医師が関与する医務部の設置をお願いします。陸協医務部の先生方と協力体制の構築は障害予防に重要です。

さて、いよいよ東京2020を迎えることとなりました。前哨戦として2019ドーハ世界陸上があります。帯同メディカルスタッフと指導者、トップアスリートとのコミュニケーションを更に緊密にし、世界陸上でのメディカルサポートを成功させるのが重要です。暑熱対策、ケガからの早期復帰は喫緊の課題であるため、リレー、競歩およびマラソンに担当医事委員をつけ、かなり成果があがってきました。

委員長は国際陸連ヘルス＆サイエンスコミッション委員、TUE委員会委員長、アジア陸連医事委員長として、世界的規模の様々な問題解決にかかわっています。日本陸連の立場だけでなく、国際的な立場からの発信が、日本陸上競技界全体の発展のためにますます重要である、と考えています。

科学委員会　杉田正明

科学委員長を拝命しました杉田です。今年で4期8年目となります。どうぞよろしくお願い致します。2020年を見据え、メンバーも40名に増員し、生理学、方法学、バイオメカニクス、トレーニング学、医学、栄養学、心理学、気象、情報など様々な分野の専門家からなる委員会を構成しました。主な取り組みとしては、競技会におけるバイオメカニクスデータを基盤としたパフォーマンス分析とそのフィードバックや強化合宿及びNTC、JISS等を活用した研修合宿における測定や支援活動など、強化現場に密着し、個別的、実践的なデータ収集と即時フィードバックに重点を置いた活動を展開します。ジュニアからシニアへの縦断的な科学的知見の蓄積も充実させ望ましい育成・強化の在り方も今後、検討していく予定です。マラソン、競歩を中心とした暑さ対策としては、これまでの様々な諸情報とともに実際のレース及び夏場の東京での複数回にわたる測定などの結果をもとに代表選手の具体的対策法を固め、密着サポートを行う予定です。冬季の各地区高体連合宿の研修において、蓄積された科学データ等の伝達講習を実施し、科学データの普及活動にも引き続き積極的に取り組みます。この2年間は科学委員会にとってもまさに正念場となります。総力挙げて科学的支援、調査研究活動に尽力したいと思います。なお、本委員会の活動成果は、毎年、陸上協競技研究紀要などで公表していますので、日本陸連HPでぜひご覧下さい。今後も強化委員会をはじめ様々な関係の委員会と緊密な連携を図りながら戦略的かつ包括的な選手支援活動に取り組んでいく予定です。本年度も科学委員会の諸活動につきましてご理解とご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

ドーハ2019世界陸上競技選手権大会
日本代表選手（トラック＆フィールド、マラソン、競歩）

1．第1次日本代表選手選考

すでに公表されている日本代表選手選考要項（トラック＆フィールド種目）、に則り、第一次代表選手選考を行った。個人種目では、本大会の参加資格を有した（参加標準記録突破、またはアジア選手権優勝者）選手で日本選手権で優勝し、即時内定となった10名が理事会において正式決定された。また、リレー代表候補選手についても、理事会にて承認された。なお、マラソン及び競歩の代表選手はすでに発表済みである。

2．第2次日本代表選手選考

トラック＆フィールド種目の日本代表選考要項に則り、日本選手権優勝者で９月６日までに参加標準記録を突破した競技者は即時内定となる。その他は、９月６日時点での参加標準記録突破者からワールドランキング等の選考基準を基に、９月７日以降にリレーの代表選手と合わせて選考される。

【男子15名】

100m、200m
サニブラウン
アブデルハキーム
（フロリダ大学／在外）

110mH
高山（タカヤマ）　峻野（シュンヤ）
（ゼンリン／東京）

400mH
安部（アベ）　孝駿（タカトシ）
（ヤマダ電機／群馬）

走高跳
戸邉（トベ）　直人（ナオト）
（JAL ／東京）

走幅跳
橋岡（ハシオカ）　優輝（ユウキ）
（日本大学／東京）

十種競技
右代（ウシロ）　啓祐（ケイスケ）
（国士舘クラブ／東京）

20㎞W
高橋（タカハシ）　英輝（エイキ）
（富士通／千葉）

20㎞W
山西（ヤマニシ）　利和（トシカズ）
（愛知製鋼／愛知）

20㎞W
池田（イケダ）　向希（コウキ）
（東洋大学／静岡）

50㎞W
勝木（カツキ）　隼人（ハヤト）
（自衛隊体育学校／埼玉）

50㎞W
野田（ノダ）　明宏（トモヒロ）
（自衛隊体育学校／埼玉）

50㎞W
鈴木（スズキ）　雄介（ユウスケ）
（富士通／千葉）

マラソン
二岡（フタオカ）　康平（コウヘイ）
（中電工／広島）

マラソン
川内（カワウチ）　優輝（ユウキ）
（あいおいニッセイ同和損害保険／東京）

マラソン
山岸（ヤマギシ）　宏貴（ヒロキ）
（GMOアスリーツ／東京）

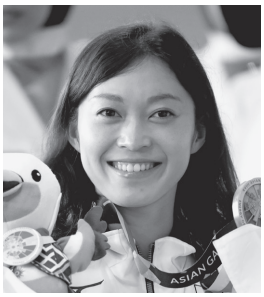
【女子10名】

100mH
木村（キムラ）　文子（アヤコ）
（エディオン／広島）

5000m
木村（キムラ）　友香（トモカ）
（資生堂／東京）

10000m
鍋島（ナベシマ）　莉奈（リナ）
（日本郵政グループ／東京）

やり投
北口（キタグチ）　榛花（ハルカ）
（日本大学／北海道）

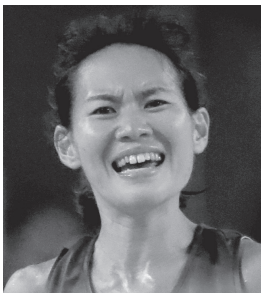


20kmW
岡田（オカダ）　久美子（クミコ）
（ビックカメラ／東京）

20kmW
藤井（フジイ）　菜々子（ナナコ）
（エディオン／大阪）

50kmW
渕瀬（フチセ）　真寿美（マスミ）
（建装工業／東京）

マラソン
谷本（タニモト）　観月（ミヅキ）
（天満屋／岡山）



マラソン
池満（イケミツ）　綾乃（アヤノ）
（鹿児島銀行／鹿児島）

マラソン
中野（ナカノ）　円花（マドカ）
（ノーリツ／兵庫）

カッコ内は（選手の所属／登録都道府県）

第６回日中韓三カ国交流陸上競技大会報告

日本陸上競技連盟　岩瀧　一生

１．はじめに

第６回日中韓三カ国陸上競技大会が６月15日に、韓国（金泉）で開催された。日本選手権前ということもあり、U20世代の競技者に国際大会を経験させることを目的とし、日本選手団は、男子16名、女子11名、役員６名で構成された。

２．生活環境

金泉の気候は、気温28～30度、湿度50～60％という環境であった。競技場は、ホテルからバスで30分程度に位置していた。日本選手団用に大型バスを２台用意されていたためホテルから競技場までの移動については、比較的柔軟に対応していただいた。食事は３食ともビュッフェスタイルで展開され、競技会の日はランチボックスでの対応であった。量・味ともに申し分なく選手からの不満はなかった。コンビニがホテルの隣にあったため特に不自由を感じることはなかった。

３．大会運営状況

他の競技会と本大会を同時開催しているため、ウォームアップエリアの混雑が非常に目立った。大会前日は、比較的選手の利用時間が少ない時間帯を選んでトレーニングを行うことができたが、大会当日の混雑はひどく、コーチの協力のもと安全面に注意をしてウォーミングアップを行った。コーチの数も少なかったため、安全管理を兼ねたコーチングは非常に困難だったため、来年度以降は本大会出場者への優先的なウォームアップエリアの利用を要望したい。

４．競技成績

日中韓の対抗戦として行われた本大会の日本の成績は、男子総合優勝、女子総合優勝、男女総合優勝と完全優勝することができた。（個人の成績については、本連盟HP参照）U20世代の競技者にとっては良い国際経験の舞台になったと感じられる。

５．最後に

今回帯同していただいた監督はじめコーチングスタッフには、競技者が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、あらゆる面でご配慮いただいたことに感謝申し上げたい。また、塚原ドクター、矢嶋トレーナーには、細やかな対応をしていただいたため、国際大会が初めての選手にも大変心強いサポートであった。

U20フランス選手権 への参加

U20オリンピック強化コーチ　杉井　將彦

１．はじめに

ドーハ世界選手権への出場が内定した橋岡優輝選手、橋岡選手のタンペレ（フィンランド）U20世界選手権金メダルの活躍は記憶に新しいところである。ここ数年毎年U20・U18世界選手権が開催されていたことで、現在の日本代表チームには橋岡選手のようにジュニア時代にU20・18世界選手権（IAAF主催大会）を経験した選手が多く含まれている。私たち強化育成部としてはジュニア期での国際大会出場経験が、その後、世界選手権、オリンピックへ日本代表として参加した際に生きると考えている。しかし、いままで隔年で開催されていた世界選手権（U20・U18）のうち、U18世界選手権が一昨年のケニア大会（日本は不参加）を最後に開催されなくなり、今年は強化育成部としての国際大会への派遣がなくなった。強化育成部として海外の競技会への参加機会を要請したところ、麻場強化委員長の理解を得て、このU20フランス選手権への派遣が決まった。派遣対象者については2018-2019オリンピック育成競技者の中から本年度の競技実績を見て18名を選考した（実際には２名の不参加があり16名）。この中には海外での競技会に初めて参加する選手が５名含まれている。

２．大会概要

U20フランス選手権にはU20とU18の部門があり、大会の開催期間は３日間であった。競技種目には４×100mR（U20・18それぞれに設定）もあることから、さながらU20・18日本選手権であった。今大会は110ｍＨでU18世界記録が出るなど盛り上がったが、フランスのジュニアのレベルは日本と比較してそれほど高くはなく、参加した選手が自己記録に近いレベルで競技すればメダルを狙える位置にあった。また、アンジェの競技場はデカネーションが開催されたことがあり、日本チームは過去２回この競技場で開催されたデカネーションに参加している。このアンジェの競技場は来年のフランス選手権が開催されるのだが、ウォーミングアップエリアは芝生広場である。

補助競技場での準備に慣れている日本人には慣れない環境で、選手は苦労したと思うが良い経験であった。

３．生活環境

宿舎であるラ・ポメラエはアンジェから30㎞ほど離れていたが、移動は手配されたバスで（ホテル・競技場間を往き帰り２便ずつ）競技時間に合わせて移動することができた。今回、日本のホストを務めてくれたマーゴ・フェルショードさんは、前回アンジェで開催されたデカネーションでもホストを務めていただいた方であった。前回のデカネーション同様、きめ細やかな対応をしていただいたことで、大会前の練習から大会期間中に至るまで全く問題はな

かった。この宿泊施設は宿泊棟の横に陸上競技場があり、時間に関係なく利用させていただくことができた。ホテル近くの競技場をこちらの都合で利用できたことが短い時間で調整するうえでとても助かった。ただし、ラ・ポメラエは避暑地のような環境であったが、部屋に冷蔵庫・エアコンがなく選手は多少の不便を感じたと思う。食事は朝晩をホテルレストランで対応していただいた。ホテルレストランには競技時間に合わせて営業時間外の対応もしていただいたため、競技にはほとんど影響は出なかった。昼は競技場において審判・競技会スタッフ用の食事（仮設テント内の昼食会場）を競技時間に合わせて利用させていただいた。また期間中の天候は３日間とも晴れで、最高気温は35度くらい（17時頃）まで上がったが、湿度が低くとても過ごしやすい気候であった。

４．競技結果

全体的に競技会のレベルに対し日本人選手の競技レベルが高く、シーズンベストまたはそれに近い記録を出した11名の選手がメダルを手にすることができた。まず日本チームとして最初の決勝種目となった男子100mでは、瀬尾選手が落ち着いた走りで優勝しチームに弾みをつけた。その後は各種目で積極的な競技内容で上位入賞した。とくにダイアモンドアスリートの出口、中村、小林の各選手は全く他を寄せ付けない圧勝であった。今シーズン怪我の影響で出遅れている海鋒選手は悔しい結果に終わったが今後に期待をしたい。投擲は出場選手全員が力を発揮し、男子優勝２、女子も出場した３選手全員がメダルを獲得することができた。

５．最後に

2018-2019 U20オリンピック育成競技者に対し、海外での競技会に参加をする機会を作って頂いたことで大変貴重な経験をすることができた。とくに環境が変わり昨シーズンの力を発揮できていない選手が、ヨーロッパの競技会において活躍することができたことで自信を取り戻したようである。また、国際大会出場のチャンスに恵まれない投擲（特に女子選手）が全員メダルを獲得したことは特筆すべきことであった。今回の参加をフランス陸連、アンジェ市からは大変歓迎して頂いたが、今後もこの事業が継続することで、2024年パリオリンピックに向けて強化の礎となればと考える。

U20フランス選手権　日本選手　競技結果

種目	氏名	予選		準決勝		決勝	
100m	瀬尾　英明	10秒67（-1.6）	1着	10秒41（+2.2）	1着	10秒49（+0.3）	1位
800m	松本　純弥	1分53秒17	1着			1分51秒31	1位
110mH（JH）	多和田　旭	13秒82（-0.4）	2着	13秒96（-0.1）	2着	13秒81（+1.7）	5位
400mH	出口　晴翔	54秒06	1着			51秒29	1位
走幅跳	海鋒　泰輝	6m91（+2.2）	通過			7m22（+4.4）	4位
三段跳	荒木　　基	14m91（+0.2）	通過			15m02（+2.8）	7位
円盤投（1.75）	山下　航生	46m27	通過			53m60	1位
やり投	中村健太郎	65m34	通過			63m83	1位
100m	青野　朱李	12秒28（-0.8）	2着	12秒06（+1.2）	4着		
800m	細井　衿菜	2分14秒28	1着			2分08秒22	2位
100mH	小林　歩未	13秒74（+0.5）	1着	13秒76（-0.3）	1着	13秒51（+1.7）	1位
400mH	青木　穂花	1分01秒55	1着			1分00秒64	2位
走幅跳	中津川亜月	5m95（+1.0）	通過			NM	
砲丸投	大野　史佳	予選なし				14m90	2位
ハンマー投	渡邉ももこ	55m65	通過			56m57	2位
やり投	奈良岡翠蘭	42m83	通過			46m84	3位

第103回日本陸上競技選手権大会・キッズデカスロンチャレンジ 報告

指導者養成委員会　岸　政智

第103回日本陸上競技選手権大会（福岡県博多の森陸上競技場）において、キッズデカスロンチャレンジ（通称デカチャレ）を最終日の６月30日（日）に実施いたしました。

デカチャレは、国際陸上競技連盟が子ども達のフィジカルリテラシーを向上するために推奨するキッズアスレティックスをベースにしています。それを日本陸上競技連盟がアレンジをして、多くの種目を体験できるようにとのことで、デカスロン（10種目）と銘打ちました。ですから陸上競技の「十種競技」のそれぞれの種目をそのまま行うことや、10種目をこなすことが大切ではなく、スポーツの基本である「走る」「跳ぶ」「投げる」を楽しく行うことをコンセプトとしています。今年度は、長居で行われた木南杯、ゴールデングランプリ、横浜で行われた世界リレーにて実施をしており、今回で４回目となりました。

参加者は、福岡陸上競技協会・福岡市・福岡都市圏が募集した、約170名が集まりました。残念ながら大会期間を通しての雨の影響で実際の参加者は、137名となりました。

前日の天気予報は、大雨ということもあり、雨バージョンでの準備をしましたが、朝グランドの芝もほぼ乾いているという状況で、イベントの途中では、強い日差しも感じられました。参加者は、３年生から６年生の男女でした。３・４年生男女混合で５チーム、５・６年生男女混合で５チームの計10チームをグルーピングし天然芝のピッチを２つに分けて、それぞれに５種目のプログラムを用意しました。

今回実施した種目は、①ラダー、②ハードル、③立３段跳び、④ターゲットスロー、⑤クロスホッピングの５種目。走跳投をまんべんなく取り入れ行いました。ラダートレーニングでは走るために必要な体のポジショニングや手足の動かし方を指導しました。ハードルでは、スポンジ製ハードルを減速せずに走ることを指導しました。立３段跳びは、３・４年生は、立幅跳びを３回続けて行いその合計記録で、５・６年生は、交互跳びでの合計記録をそれぞれ競い合いました。ターゲットスローでは、ジャベボールの投げ方から、得点付きの大きな的をテントに張り、そこをめがけて投げ当て、その合計得点で競争するなど、少しでも子ども達が興味を持つような工夫をして実施いたしました。クロスホッピングでは、ケンステップを前後左右に15秒間にどれだけ早く連続ジャンプができるかを測定しました。

約10分程度の限られた時間でのローテーションではありましたが、ケガをしない正しいフォームや動きを、楽しみながら習得することができました。

そしてその後、休憩を挟みフォーミュラー・ワンを行いました。フォーミュラー・ワンは、リレー形式の障害物競争のイメージです。障害物は、前半で行った種目を織り交ぜて実施しました。バトンはリングバトンという持ちやすく落としづらいものとなっています。また交代ゾーンは、高跳びのマットに飛び乗って次走者へ渡していきます。リレー形式になることで、自分だけでなくチームとしての盛り上がりがあり、我々スタッフや補助スタッフも子ども達と一体感を感じることができました。なによりも、リレー（競争）をすることで一段と盛り上がったように感じました。２レースタイムレースだったため、レース後に、子ども達が目を輝かせて、優勝チームの発表を聞いていたのがとても印象に残りました。優勝チームには、飛び入り参加のアスリオンが賞品を手渡ししてくれました。

器具も子ども用の備品を使用することで、大きさや素材の硬さ、重さなども小学生低学年の子ども達でも怖がらずにチャレンジすることができました。

今回会場は、本競技場で行いました。子ども達は昨日まで日本のトップ選手が熱戦の場としていることを観戦やテレビでみており、入場する際はかなり緊張した面持ちでした。実際にグランドレベルに降りることで、競技場の大きさや緊迫感、選手が入場する特設ステージも見ることができました。そこで選手と同じ目線で、グランドレベルに立てたことで、あっという間でしたがとても貴重な経験となったと思います。

このイベントは、子ども達が「走ること」「跳ぶこと」「投げること」が楽しいな、と感じることが一番大切です。日本陸連指導者養成委員会では、学年や性別、スポーツ経験などを超えて、誰もが安全にデカチャレを体験し、スポーツを楽しみ、「笑顔になること」。それこそが、子ども達が陸上競技に触れる普及の第一歩となるようにと考えております。

最後になりましたが、キッズデカスロンチャレンジを実施するにあたり、ご協力をいただいた、福岡県・福岡市・福岡陸上競技協会・福岡都市圏・福岡大学陸上競技部・協賛各位の皆様に心から厚く御礼申し上げ、報告とさせていただきます。

JAAF アスリート発掘･育成プロジェクト クリニック事業

指導者育成委員会　桜井 智野風

今年も始まりました！アスリートクリニック

アスリートクリニックは、小学校高学年と中学1年生の子どもたちに「走る・跳ぶ・投げる」の楽しさを伝えることを目的とした、日本陸上競技連盟の掲げる競技者育成指針の考え方に基づいた講習会です。日本陸上競技連盟としては、将来の日本陸上競技界を担う未来のアスリートを発掘・育成すると同時に、開催の都道府県陸上競技協会と連携を深める機会として位置付けています。本事業は、アシックスジャパン株式会社とデンカ株式会社のご協賛、並びにスポーツ振興くじ助成金の補助を受け開催してまいりました。2018年度は、小学校高学年を対象としたU-13アスリートクリニックを10会場、中学1年生を対象としたU-16アスリートクリニックを10会場、計20会場で開催し、全国に講師を派遣することにより、年間で1,339名の子どもたちに指導し、陸上競技の楽しさを伝えることができました。2019年度は、U13アスリートクリニックを全国11会場、U-16アスリートクリニックを全国7会場、計18会場での開催を予定しております。

こうして長きにわたりアスリートクリニックを開催できるのも、参加者の募集から当日の運営までご尽力頂いております開催陸協の皆様と、当日元気に参加してくれる子どもたち、保護者、コーチの皆様のご協力のおかげと心より感謝申し上げます。また、本年度も変わらぬご支援賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

U13 アスリートクリニック　北海道会場

2019年7月21日（日）、本年度第1回目のU13アスリートクリニックを北海道岩見沢市東山公園陸上競技場において開催いたしました。

【楽しく走跳投！】

午前中は講義と実技講習、午後は栄養の講義と記録会という構成で行われました。参加者の小学生達は、午前の講義では、保護者やコーチと一緒に小学生の発育発達について話を聞きました。小学生期では、身体の成長を考えると専門種目の選択を焦ることはなく、様々なスポーツや運動を行うことが重要です。陸上競技でも走跳投のすべての種目を行うことが重要であることを学びました。その後、競技場に移動し、遊びを交えた走跳投の基本的な動きと、午後の記録会に備えて、走幅跳、走高跳、ジャベリックボール投の基本に関して講習を受けました。午前中の最後は全員が100m走のタイムトライアルを行いました。測定は100分の1秒単位で計測可能な光電管を使用しました。昼食後は、保護者、指導者･コーチとともに栄養学の講義を受け、成長期の子どもの身体にはどのような食事内容や生活リズムが大切なのかを学びました。その後､競技場に出て混成競技の記録会を行いました。「走高跳」「走幅跳」「ジャベリックボール投」に挑戦し、終了後は記録証を受け取りました。また、クリニックに参加している意識を高めてもらうとともに午後の記録会のために、特製のナンバーカードを胸に貼り付けての講習となりました。「気持ちは競技会」という雰囲気も感じられ、午後の記録会ではベスト記録を出す子どもも多くみられました。指導者・コーチの皆様の献身的な協力もあり、非常に活気に満ちたクリニックとなったと思います。

最後になりましたが、U13クリニック北海道会場を実施するにあたり、ご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

Running Week 2019・IAAF Run 24:1開催報告

■開催趣旨

ウェルネス陸上を推進する、日本陸連の新プロジェクト「JAAF RunLink」は、2019年６月１日（土）～６月９日(日)の９日間に渡り「Running Week 2019」を開催し、28企画、オンライン、リアルイベントを含め約40,000名が参加いたしました。地方自治体、都道府県陸上競技協会、企業、ランニングクラブ等、ランニングに関わる様々なステークホルダーと連携し、本期間に全国で集中的にランニング関連イベントや販促キャンペーン等の実施を促し、ランニングの人口の拡大と健康社会の実現を目指し2020年以降も継続した取り組みにしていきたいと考えております。

名称：Running Week 2019
日程：2019年６月１日（土）～６月９日（日）
主催：公益財団法人日本陸上競技連盟
共催：一般財団法人東京マラソン財団、東京都公園協会、渋谷区
後援：スポーツ庁、経済産業省、観光庁、一般財団法人日本経済団体連合会
会場：全国各地

名称：IAAF RUN 24-1
日程：2019年6月2日（日）
主催：国際陸上競技連盟、公益財団法人日本陸上競技連盟
後援：スポーツ庁、経済産業省、観光庁、一般財団法人日本経済団体連合会

■開催趣旨

IAAF（国際陸上競技連盟）が主催し、時差を利用して１時間ごとに、フィジーから最終都市モナコまで、世界24都市で１マイル（1.6km）のファンランイベントを開催いたしました。また各都市のシンボルであるシティキャプテンを川内優輝（あいおいニッセイ同和損害保険）選手に務めていただきました。

【開催都市】

１．フィジー→２．メルボルン（オーストラリア）→３．東京→４．北京（中国）→５．デリー（インド）→６．シンガポール→７．ヌルスルタン（カザフスタン）→８．モーリシャス→９．ナイロビ（ケニア）→10．ガザ（パレスチナ自治区）→11．コペンハーゲン（デンマーク）→12．イスタンブール（トルコ）→13．バーミンガム（イギリス）→14．ミラノ（イタリア）→15．ハボローネ（ボツワナ）→16．ヤウンデ（カメルーン）→17．ボゴタ（コロンビア）→18．ハバナ（キューバ）→19．ラバト（モロッコ）→20．サンパウロ（ブラジル）→21．サンティアゴ（チリ）→22．ケレタロ（メキシコ）→23．アトランタ（アメリカ）→24．モナコ

スポーツくじ toto BIG
私たちはスポーツ振興くじ
助成を受けています。

2019数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数

事　務　局

シリーズ「2019数字で見る陸上競技」の連載第2弾。
Vol.2では、各都道府県陸上競技協会における2018年度公認審判員の登録人数を掲載します。

2018年12月31日現在

NO	陸協名	S級		A級		B級		合計
		男	女	男	女	男	女	
1	北海道	154	13	256	38	754	230	1,445
2	青　森	67	3	81	5	399	120	675
3	岩　手	79	2	107	18	339	92	637
4	宮　城	97	12	140	24	413	105	791
5	秋　田	78	0	110	9	484	86	767
6	山　形	87	0	153	12	462	120	834
7	福　島	106	4	252	27	244	85	718
8	茨　城	74	2	140	19	367	88	690
9	栃　木	39	2	86	3	226	54	410
10	群　馬	78	1	104	5	551	131	870
11	埼　玉	66	2	229	30	317	73	717
12	千　葉	94	5	206	19	727	167	1,218
13	東　京	425	47	372	102	479	194	1,619
14	神奈川	213	2	249	25	976	224	1,689
15	山　梨	88	4	128	25	281	72	598
16	新　潟	67	0	154	8	730	139	1,098
17	長　野	101	0	135	9	523	118	886
18	富　山	79	3	154	11	242	53	542
19	石　川	70	4	109	8	404	137	732
20	福　井	39	1	95	9	288	99	531
21	静　岡	195	10	258	37	572	142	1,214
22	愛　知	108	4	136	10	654	213	1,125
23	三　重	42	2	96	6	323	105	574
24	岐　阜	60	4	131	13	301	76	585
25	滋　賀	88	3	231	23	369	162	876
26	京　都	104	5	156	17	752	331	1,365
27	大　阪	177	10	331	65	725	256	1,564
28	兵　庫	92	3	246	15	678	91	1,125
29	奈　良	2	0	41	4	66	19	132
30	和歌山	16	1	124	9	227	67	444
31	鳥　取	37	4	145	20	89	22	317
32	島　根	75	6	129	22	410	81	723
33	岡　山	68	5	204	50	254	101	682
34	広　島	132	6	214	20	448	129	949
35	山　口	91	3	149	24	292	58	617
36	香　川	31	0	101	6	151	39	328
37	徳　島	21	1	74	7	97	48	248
38	愛　媛	46	1	132	10	298	113	600
39	高　知	39	4	85	14	152	50	344
40	福　岡	218	10	275	36	867	318	1,724
41	佐　賀	61	1	105	17	120	45	349
42	長　崎	39	2	86	8	271	47	453
43	熊　本	65	6	166	36	167	47	487
44	大　分	99	5	124	33	216	64	541
45	宮　崎	44	5	99	11	348	82	589
46	鹿児島	65	2	168	20	561	179	995
47	沖　縄	57	2	84	16	119	34	312
		4,173	212	7,350	955	18,733	5,306	36,729

大会観戦ガイド

2019.8.1時点

若きアスリートの熱き戦いが続きます！

全日本中学陸上はヤンマースタジアム長居、全国高校陸上選抜はヤンマーフィールド長居が激戦の地！

2020東京オリンピック男女マラソン日本代表選考レースであるマラソングランドチャンピオンシップは９月15日号砲！

是非、会場で応援して下さい！

令和元年度全国中学校体育大会 第46回全日本中学校陸上競技選手権大会

▼期日：８月21日（水）～24日（土）

開会式	８月21日（水）	12：30～13：30
競技会	８月21日（水）	15：30～18：00
	８月22日（木）	09：30～17：30
	８月23日（金）	09：30～18：30
	８月24日（土）	09：30～16：00
閉会式	８月24日（土）	16：30～17：00

▼会場：ヤンマースタジアム長居
大阪市東住吉区長居公園１－１

▼アクセス：

〈電車〉

地下鉄御堂筋線「長居」下車。1番出口より500ｍ（徒歩6分）

JR阪和線「鶴ヶ丘」下車。東出口より550ｍ（徒歩6分）

JR阪和線「長居」下車。東出口より650ｍ（徒歩7分）

〈車〉

大阪北部方面から

昨年度の大会より（女子砲丸投で中学新記録を樹立した奥山琴未）

阪神高速14号松原線 駒川出口

南港通を西へ、西田辺交差点を南（あびこ筋）へ、長居公園西口交差点を左折

大阪南部方面から

阪神高速14号松原線 文の里出口

あびこ筋を南へ、長居公園西口交差点を左折

▼種目：

〈男子〉 13種目

100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、110mH、4×100mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投（5.000kg）、四種競技（110mH、砲丸投（4.000kg）、走高跳、400m）

〈女子〉 10種目

100m、200m、800m、1500m、100mH、4×100ｍリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投（2.721kg）、四種競技（100mH、走高跳、砲丸投（2.721kg）、200ｍ）

▼放映予定：8月24日（土） 14：20～16：00

NHK Eテレ（LIVE）

▼問い合わせ先：

（大会開催前）

2019年全国中学校体育大会大阪府実行委員会事務局

「「第46回全日本中学校陸上競技選手権大会」」

TEL：06-4792-7811　FAX：06-4792-8638

（大会開催中）

8月21日（水）～24日（土）

［昼間］ヤンマースタジアム長居 陸上競技大会総合案内所

TEL：特設のため決まり次第

［夜間］天王寺都ホテル

TEL：06-6628-3200

大会ホームページ　http://www.oaaa.jp/zenchu/

第54回全国高等専門学校体育大会 陸上競技

▼期日：8月17日（土）～18日（日）

▼会場：エディオンスタジアム広島（広島広域公園陸上競技場）　広島県広島市安佐南区大塚西5-1-1

▼アクセス：

〈飛行機〉

広島空港 ⇒ 約40分 ⇒ 中筋バスターミナル下車～アストラムライン乗り換え ⇒ 約22分（360円）⇒ 広域公園前駅

〈電車〉

広島駅～スタジアム直行バスに乗り換え

昨年度の大会より

▼種目：
〈男子〉　18種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mH、400mH、3000m障害物、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投（6kg）、円盤投（1.75kg）、やり投
〈女子〉　11種目
100m、200m、800m、3000m、100mH、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投（4.0kg）、円盤投（1.0kg）、やり投
▼問い合わせ先：
第54回全国高等専門学校体育大会陸上競技事務局
広島商船高等専門学校学生課内
TEL：0846-67-3123

第7回全国高等学校陸上競技選抜大会

▼期日：8月31日（土）～9月1日（日）
▼会場：大阪府・ヤンマーフィールド長居
大阪府大阪市東住吉区長居公園1-1
▼アクセス：
地下鉄御堂筋線「長居」、JR阪和線「長居」または「鶴ヶ丘」下車。

昨年度の大会より（女子スプリント・トライアスロンで優勝した臼井文香）

▼種目：
〈男子〉　10種目
スプリントトライアスロン（60m・150m・300m）、600m、3000m、110mH、300mH、2000m障害物、3000m競歩、二段跳、砲丸投、五種競技（100m・走幅跳・砲丸投・走高跳・400m）
〈女子〉　12種目
スプリントトライアスロン（60m・150m・300m）、600m、2000m、100mYH、300mH、2000m障害、3000m競歩、四段跳、棒高跳、砲丸投、ハンマー投、四種競技（100mH・走高跳・砲丸投・200m）
▼問い合わせ先：
日本陸上競技連盟
TEL：050-1746-8410　FAX：050-3588-1869
大会ホームページ
https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1422/

マラソングランドチャンピオンシップ 兼 東京2020 オリンピック日本代表選考競技会 兼 第103 回日本陸上競技選手権大会

▼期日：9月15日（日）
▼コース：
明治神宮外苑発着（日本陸上競技連盟公認コース）
明治神宮外苑いちょう並木～四ツ谷～飯田橋～神田～日本橋～浅草雷門～銀座～芝公園～日本橋～二重橋前～神保町～飯田橋～四ツ谷～明治神宮外苑いちょう並木
▼アクセス：
明治神宮外苑
▼種目：
マラソン（男子・女子）
▼問い合わせ先：
日本陸上競技連盟
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869
大会ホームページ
http://www.mgc42195.jp/

2018年福岡国際マラソンでMGC出場権を手にした服部勇馬選手

JAAF TOYAMA 一般財団法人富山陸上競技協会

〒939-8234　富山市南中田368番地
富山県総合運動公園陸上競技場内
TEL.076-461-5917　FAX.076-461-5927
http://www.jaaf-toyama.net/

県総合運動公園陸上競技場のメイントラックは赤色ですが、補助競技場が平成30年５月からブルートラックとして生まれ変わりました。ブルートラックには「鎮静効果」があり、ランナーはリラックスすると共に集中力を増す効果が高いと言われています。導入されて１年余り経過しますが、大会や練習等で使用する選手には大変好評を得ています。また補助競技場は柵等で遮ることもなく、自然環境と一体化しているように開放感がある場所に設置してあるため、ブルートラックの効果と共に自然を感じながら、誰でも無料でランニングやダッシュ等を行うことができるように開放しています。10月27日（日）には５回目となる2019富山マラソンが開催されます。県総合運動公園はマラソンコースからは少し離れた場所にありますが、機会があれば、是非一度は訪れていただきたいと思っています。

（文責：競技部長　亀田二三夫）

JAAF FUKUI 一般財団法人福井陸上競技協会

〒918-8585　福井市三十八社町33-66　フクビ化学工業株式会社内
TEL.0776-38-0360　FAX.0776-38-0361
http://www.fukui-jaaf.com/

福井陸上競技協会は2019年８月17日（土）『第１回　Athlete Night Games in FUKUI ～ 9.98 FUKUI CUP ～』を開催いたします。

桐生祥秀選手が2017年に福井運動公園陸上競技場で９秒98で走ったことに肖り、競技場の愛称を『9.98スタジアム』と命名した本スタジアムは、気候条件が整ったとき、とてつもなく好記録が出やすい競技場になります。

2019年の福井県高校総体陸上競技大会において、男子100m予選において、10名の福井県内高校生が10秒台を記録しました。これは、気象条件が整ったときに、その選手の持っている力を大いに引き出してくれたよい例だといえます。この競技場で、日本のトップアスリートの活躍を大いに期待しています。また、我々、福井陸協も全力で選手の活躍のために準備いたします。

また、アスリートの皆さんの活躍に少しでも貢献できないかと『クラウドファンディング』という手法で、アスリート向けに活動支援金を募りましたところ、全国から785万円の協力を得られることができました。今大会の趣旨に賛同し、協力をしてくださった陸上競技ファンの皆様、企業の皆様、この紙面をお借りし心より御礼申し上げます。皆様の期待に応えられるよう最大限準備をして参ります。

全国の陸上競技ファンの皆さん、８月17日（土）は是非福井まで来ていただき、本大会をご覧になってください。詳細は、福井陸上競技協会ホームページに掲載されております。

（文責：木原靖之）

JAAF ISHIKAWA 一般財団法人石川陸上競技協会

〒921-8833　野々市藤平144-5
TEL.076-227-9410　FAX.076-227-9410
http://gold.jaic.org/ishikawa/

５月開催の定例理事会ならびに６月の定例評議員会にて任期満了に伴う新役員が承認され、宮地会長の再任で令和元年からの新体制が決定いたしました。

会　　長：宮地　治
筆頭副会長：温井　伸
副　会　長：大岩為一、松本　彰、中嶋敏一
専 務 理 事：藤垣晴夫、
副専務理事：吉田久俊、澤田剛紀、多井英一、池岸晃弘
監　　事：西　徹夫

常務理事に11名、加入団体理事に12名が承認され新たなスタートを切りました。また、新たな組織として強化対策・普及対策・事業企画対策プロジェクトチームを発足し、あわせて、本県の陸上競技の更なる飛躍と発展に努力していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

北信越地区高校総体が長野県で実施され、全国高校総体の選手が決定しましたが、残念ながら出場人数は昨年より減少し厳しい状況に終わりました。特に男子の強化が課題を残しました。中学生では、今後、県大会・通信陸上大会、小学生の県大会も行われ全国大会の選手が決定いたします。ジュニア層の全国大会での活躍を祈っております。

また、今年ドーハで開催される世界選手権に先の輪島競歩50km競歩で日本新記録を樹立した本県出身の鈴木雄介選手が出場します。是非ともメダルを獲得できるよう陸上関係者をはじめ県民全体で期待しておりますので頑張ってほしいと思います。

JAAF NAGANO 一般財団法人長野陸上競技協会

〒381-0038　長野市東和田632　長野市営陸上競技場内
TEL.090-1867-7044　FAX.026-241-5155
http://nagano-rk.com/

役員改選　第９期スタート

長野陸協は、５月末の評議員会・理事会において以下のとおり役員の改選を行いました。代表理事の萩原会長と内山理事長は継続で３期目となります。また、会員外評議員と監事を新たに選任しました。

代表理事・会長：萩原　清、代表理事・理事長：内山了治
副会長（会長代行）：浦野義忠（新）
副会長：遠山正洋（新）、小松 茂美（新）、由井正巳（新）
副理事長：葛城光一（新）、青山陸生、玉城良二、有賀大成（新）

協会運営、競技会運営、競技力向上（普及）の大きな３本柱を軸に、協会運営は、法律と県陸協定款・諸規程に則り行う、競技会運営はこれまでどおり３つのフレンドリーを合い言葉にさらに、安全で盛り上がる競技会を目指し、同時に、審判員の省力化を実現できる試み等課題解決に取り組みます。競技力向上は最大の課題ですが、2027年国体での種目別優勝を目指し取り組んでいます。また、障がい者スポーツ大会に向けての取り組みも重要な課題です。新メンバー共々、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。（文責：代表理事・理事長　内山了治）

第103回 日本選手権混成競技 七種競技表彰（６月９日、長野市営陸上競技場）

陸協NEWS

JAAF SHIZUOKA 一般財団法人静岡陸上競技協会

〒420-0836　静岡市葵区東町15
TEL.054-253-9801　FAX.054-253-9801
http://www2.wbs.ne.jp/~nagata/t&f/

2019・2020年度　静岡陸上競技協会役員を紹介します(○は新任)。

・会　　長　北澤晴樹
・副　会　長　望月紘一、○山口嘉一
・理　事　長　新谷誠規
・副理事長　神山心一、○岩本穣兒、○松井清和
・評　議　員　眞下達雄、梶　壽雄、○西尾　誠、佐藤常保、村松義明、村上　馨、荒川　功、○池田　毅、山下眞里
・常任理事　小林一幸、小池一男、石野吟策、○堀之内大、○筒井計臣、神谷晃尚、大原一夫
・理　　事　○福良勝己、土屋洋治、○笠井高昭、木下佳彦、西島信弘、望月勇志、○西井勝章、原田洋一郎、新間一夫、○小沢　誠、横山邦宏、○佐藤和久、杉井將彦、○石田　征、大森　洋、平渡辺辰彦、川口雅司、○佐々木茂雄、○星利　光、○森　貴司
・監　　事　今野佐十、○奥島　修、外波山雅章
・事務局長　大原一夫
・総務委員長　石野吟策
・競技委員長　永田勝久
・審判委員長　井出幸夫
・強化委員長　吉田健一
・普及委員長　豊田博幸
・情報システム委員長　三枝宣男
・施設委員長　○渡邊祐司
・記録委員長　赤堀順一
・広報委員長　水谷陽介
・スポーツ医科学委員長　齊藤史門

JAAF GIFU 一般財団法人岐阜陸上競技協会

〒502-0841　岐阜市学園町3-49　仁科ハイツA-102
TEL.058-294-6494　FAX.058-294-6491
http://www.gifu-riku.com/
（2019.7.8現在）

2019年度を迎えて

本年度は本協会理事の改選年でした。本県陸協が法人化して理事の任期に定年制度を設けましたが初めて採用する改選年となりました。

近年、少子化にもかかわらず昨年の岐阜陸協の登録者数は大きな減少もみられず、言い換えれば本県の陸上競技の普及がなされているとも言えます。しかしながら、一方では、協会員の高齢化も進んでいます。ベテランの経験知識、若い世代の行動力を基盤に競技運営、選手の強化育成を進めていくことが重要な課題です。

さて、昨年の第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会（以後、アジアジュニア陸上）開催に続き、本年度は、7月にWorld Para Athletics公認2019ジャパンパラ陸上競技大会（以後、ジャパラ）、9月に天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会（以後、日本インカレ）が岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催され、この2大会の競技運営を岐阜陸上競技協会（以後岐阜陸協）が担当することになっています。それぞれに、準備が進められています。

日本インカレでは「オリンピックを狙う選手の活躍と、大地を揺るがす各大学の対校戦の迫力を！」そして、ジャパラでは「個々の障がいを乗り越えて、競技を通し自己の可能性に挑戦する姿を！」県民の皆さんに是非体験してもらいたいと思います。

2020東京オリンピック、パラリンピックを目指す選手たちが熱い思いで岐阜メモリアルセンター長良川競技場を目指してきます。岐阜陸協の総力を挙げて大会を迎えたいと思います。　（文責：黄倉寿雄）

JAAF AICHI 一般財団法人愛知陸上競技協会

〒460-0015　名古屋市中区大井町3-15　日重ビル2F
TEL.052-684-7498　FAX.052-684-7499
http://www.aichi-rk.jp/

愛知陸協登録会員で、6月の福岡博多の森で行われた日本選手権において、3位までに入賞した選手は次の4名の方々です。田中秀幸（5000m 2位・トヨタ）、服部弾馬（5000m 3位・トーエネック）、山本聖途（棒高跳3位・トヨタ）、湯上剛輝（円盤投3位・トヨタ）。

特に、前年度の日本選手権で優勝した山本選手には、オリンピックでの活躍も期待されます。9月15日（日）にマラソンMGCが行われます。トヨタ自動車から宮脇・服部・藤本・堀尾の4名の選手、トーエネックより河合選手が出場します。オリンピック出場の期待が高まります。

東海地区高校総体が、6月に来年度全国高校総体会場の静岡エコパスタジアムで行われました。愛知県勢の活躍がめざましく、20種目中女子12種目、男子10種目に優勝し、愛知県の強さが目立ちました。インターハイの本番が益々楽しみとなってきました。

また、総合では男子中京大中京高校、女子至学館高校がそれぞれ優勝し、昨年中京大中京高校女子総合優勝に続き、インターハイの総合優勝の期待も膨らみます。

若い有望な選手が多くいる愛知県、8月の全国小学生陸上（日産）、例年70名ほど出場する全国中学陸上（大阪）、インターハイ（沖縄）、9月のインターカレッジ（岐阜）それぞれの大会において、若いアスリートの活躍を期待いたしております。

8月下旬には、国体、全国都道府県対抗駅伝の優勝を目指し、一宮で一泊二日、長距離・駅伝合宿が二泊三日（長野・富士見）で行われます。　（文責：専務理事　稲垣裕）

JAAF MIE 一般財団法人三重陸上競技協会

〒516-0023　伊勢市宇治館町510
三重交通Gスポーツの杜　伊勢　内
TEL.0596-22-8890　FAX.0596-63-5337
http://www.mierk.jp/menu/index.htm

6月に行われた個人種目選手権大会において伊勢港中学の世古綾葉選手が100mで11秒99の三重県中学新記録を出し、県内女子中学生初の11秒台の快挙を成し遂げました。また、その勢いのまま、7月の三重県選手権において伊勢港中学女子リレーチームが4×100mRでも48秒60の三重県中学新記録を出し、大阪全日本中学に向けて好スタートを切っています。三重県内を含め全国的にもレベルの高い今年の中学3年生年代なので県新記録という大きな自信を背に勝負を挑んでほしいものです。

7月の日清食品カップ小学生陸上競技交流大会三重県予選会においていすずUKの北尾心映選手が小学6年生女子100mにおいて12秒76の記録を出し、三重県小学記録を大きく更新しました。他の選手を寄せ付けない圧巻の走りは、日産スタジアムでも大きく飛躍してくれることを予感させるものでした。

高校生でも四日市商業の奥林凛選手が400mHで三重県高校総体で1分00秒56の三重県高校新記録を出し、東海高校総体では58秒73の東海高校新記録と大きく記録を更新しました。

女子短距離を中心に各年代県記録の更新が続いています。三重全日本中学までの残り1年。中学生だけでなく県内全体で士気を高め、三重県選手の活躍を中心に全中成功へ向けて突き進んでいきます。

（文責：広報部　中村恭和）

事務局からのお知らせ

◇◆9月15日（日）開催！夢の切符を掴むのは誰だ！マラソングランドチャンピオンシップ！◆◇

東京 2020 オリンピック競技大会マラソン日本代表選手選考会として開催されるマラソングランドチャンピオンシップ。戦いの舞台は東京！

２年の激闘を経て訪れる実力者たちの体当たりレース。

大会特設サイトでは、最新情報を随時更新中です！出場選手紹介から、当日のコースなど、大会を楽しむことができるコンテンツが満載です。

▼マラソングランドチャンピオンシップ特設サイト

http://www.mgc42195.jp/

陸連時報編集委員

◇編集委員
横川　浩（陸連会長）
友永　義治（陸連副会長）
八木　雅夫（陸連副会長）
尾縣　貢（陸連専務理事）
麻場　一徳（陸連強化委員長）
風間　明（陸連事務局長）
牧野　豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者
大嶋　康弘
◇時報編集担当
繁田　進
石塚　浩
木越　清信
宮田　宏
廣瀬　静香

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869